

講義コード	25468029	
担当者	松枝 法道	
研究題目	ゲーム理論の経済・社会問題への応用	
<p>1. 「ゲーム理論」について</p> <p>ゲーム理論とは、戦略的な駆け引きが重要な場面において、人々がどのように物事を決めるのか、さらに、決めるべきかを考えるために発展させられてきた手法の体系を指します。自分のしあわせが自分自身の行動だけでなく、相手の行動にも依存しているとき、自分がどう動くかを定める上でも、相手がどう出てくるのかを考えることが大切になります。そのような状況は、企業間の競争、政治家の駆け引き、国際関係、家族の間、教員と学生のつきあい、ひいては、一人の人間の中に生じる利害の葛藤など、いろいろな局面において存在しています。</p> <p>2. 研究演習の概要</p> <p>この研究演習では、研究演習入門と研究演習Ⅰの春学期を前半、研究演習Ⅰの秋学期と研究演習Ⅱを後半と位置づけ、前半においては、各自がゲーム理論の基礎的な手法を習得することを目指します。まず教員が授業内で概念を講義した後、その内容の理解を深めるために関連した課題を出します。学生はグループごとに解答を提出し、それについて議論を行います。</p> <p>後半では、ゲーム理論を現実の経済・社会問題に応用することでどのような知見がえられるのかをテーマに研究を行います。各々が自らの興味に応じて研究対象を決め、必要に応じて更に高い水準の分析手法を身につける努力をしながら、卒業論文としてオリジナルな分析を完成させることを目標に研究を行います。また、研究論文の執筆やプレゼンテーションの仕方についてもアドバイスをします。</p> <p>研究論文というとなりに聞こえますが、要は、これまで誰も言っていない見解を、自分の言葉を使って聞き手を納得させることが研究です。また、「自分の言葉を使って」という部分は、ゲーム理論という分析ツールを使って、十分に長い間、こうでもない、ああでもない、とあれこれと考えているうちに自然と実現するものです。卒業論文の執筆に際しては、あくまでも学生のみなさんが主導権を握り、教員はみなさんと一緒にどうすればより説得力のある説明ができるかを考えます。</p> <p>3. 選考について</p> <p>この研究演習を志望される方は（志望順位を問わず）、志望理由、および、経済・社会に対する自らの関心を記した文書を A4 紙一枚程度で結構ですから、経済学部事務室へ提出してください。字数、フォーマットは自由です。もし志望者が定員数を超える場合には、提出書類の内容をもとに選考を行います。</p>		
受け入れ条件		志望理由書の提出
担当者のプロフィール	専攻	環境・資源経済学, 応用ミクロ経済学
	現在の研究テーマ	リサイクル促進政策がもたらす影響の分析 政策担当者の自信過剰が金融政策運営に与える影響の分析 環境問題に関する業界内の自己規制がもたらす影響の分析
	所属学会	日本経済学会 American Economic Association